

今月の特集は「エビジェネティクス」。比較的新しい臨床遺伝学分野がテーマであり、読み応えのある内容となっています。「小児科医が知っておくべき基礎知識」とは言いつつ、本書を手に取り読みだすには覚悟が必要かも知れません。

まずは鏡雅代先生に総論を担当していただきました。その中で、エビジェネティクス修飾の可視化が未診断症例の診断に大きく寄与する可能性について強調しておられます。廣野恵一先生には、先天性心疾患や川崎病などの小児循環器疾患について、齋藤伸治先生には小児神経疾患について、いずれも重大な疾患の病態解明にエビジェネティックの知識、技術が大きく貢献していることが紹介されています。

小林靖子先生にはアレルギー疾患の分野で、子宮内を含めた環境因子がかかわるエビジェネティクス、それらをふまえた発症メカニズムの解明、治療薬の開発にまで話題を広げていただきました。緒方勤先生には、インプリンティングが胎児と胎盤の成長に密接にかかわっているという見逃されがちな事実についても概説いただきました。

長野野那先生には腎の発生に始まり、先天性腎尿路奇形、さらには急性腎障害の発症とエピゲノム調節について説明していただきました。また、miRNAをターゲットとした核酸医薬についてもご紹介いた

だきました。井上祐三朗先生には全身性エリテマトーデス、若年性特発性関節炎を例に、自己免疫・自己炎症とエビジェネティクス修飾についてご説明いただきました。いずれも、発生学や免疫学領域でのエビジェネティクスの重要性を実感させられる内容です。

三宅邦夫先生には、精神疾患におけるエビジェネティクスについて研究の成果と問題点をご説明いただき、発症にかかわる環境要因についても触れていただきました。寒竹正人先生には自然早産に関与する多くの因子の相互作用とエビジェネティクスについてご説明いただきました。多数の因子が関与する複雑な病態の理解にエビジェネティクスの知識が必要とされていることがよく分かります。

いずれの執筆者も、診断技術の向上とその先に見えてきた治療戦略について言及されていることが印象的です。最先端の臨床遺伝学がいよいよ臨床の場で活用され、日常診療に不可欠のものになりつつあること、つまり「小児科医も知っておくべき基礎知識」になりつつあることを実感させる特集です。ここは腰を据えて、じっくり通読されることをお勧めいたします。

(高橋 孝雄)

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第64巻 第5号 5月号

2023年5月1日発行（毎月1回1日発行）

定価3,190円（本体2,900円＋税10%）

年間購読料金

定価48,950円（本体44,500円＋税10%）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03-3811-7165〔雑誌部直通〕

Tel 03-3811-7184〔営業部直通〕

Fax 03-3813-0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03-3637-0005

広告申込先 株式会社文京メディカル Tel 03-3817-8036

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。